

ナタリー・デセイ (ソプラノ) Natalie Dessay, Soprano



リヨン生まれ。当初はパリやウィーンにおいて、モーツアルト、R.シュトラウス等の諸役を歌い、パリ・オペラ座の《ホフマン物語》オランピア、オペラ・コミック座の《ラクメ》タイトルロール等のフランス物を歌って本格的に主役デビュー。そして、ジュネーヴ、トゥールーズ、バルセロナ、シャトレ座、英国ロイヤル・オペラで《ハムレット》のオフィーリア、メトロポリタン・オペラ(Met)、パリ・オペラ座で《ナクソス島のアリアドネ》のツェルビネット等を歌い、実力を發揮した。

ベルカント物で脚光を浴びたのは、ミラノ・スカラ座や、ローザンヌ、ボルドー、サンタフェで《夢遊病の女》のアミーナ、リヨン・オペラ座で《ランメルモールのルチア》(フランス語版)のタイトルロールを歌った時から。なお、《ルチア》のイタリア語版は、シカゴ・リリック・オペラとMetで歌っている。

その他、ジュネーヴで《マノン》のタイトルロール、グラスゴーで《ペレアスとメリザンド》のメリザンド、Metで《ロメオとジュリエット》のジュリエット、サンタフェで《魔笛》のパミーナ、パリ・オペラ座でルチア、リヨンとシャンゼリゼ劇場でアミーナを歌い、近年では、英国ロイヤル・オペラ、ウィーン、Metで《連隊の娘》のマリー、バルセロナとサンフランシスコでマノンを歌っている。

今後は、前記の諸役を各地で歌うほか、サンタフェとエクサン・プロヴァンス音楽祭で《椿姫》ヴィオレッタ、パリ・オペラ座で《ラ・ボエーム》のムゼッタを歌う予定。

マシュー・ポレンザーニ (テノール) Matthew Polenzani, Tenor



当代きってのリリック・テノール歌手であり、2004年度リチャード・タッカー音楽賞、2008年メトロポリタン・オペラ(Met)のビバリー・シルズ芸術家賞を受賞。

Metではとりわけ活躍著しく、《椿姫》(フレミングの相手役)、《ロメオとジュリエット》(ネトレプコの相手役)、《後宮からの逃走》(ダムラウの相手役)をはじめ、《魔笛》《トロイ人》《ドン・ジョヴァンニ》《サロメ》、《セビリヤの理髪師》《コジ・ファン・トゥッテ》《ファルスタッフ》等に出演している。また《椿姫》では、シカゴ・リリック・オペラ、ミラノ・スカラ座、フィレンツェ歌劇場、エクサン・プロヴァンス音楽祭に出演。このほか、パリ・オペラ座で《カブレーイー家とモンテッキ家》《ランメルモールのルチア》、ザルツブルク音楽祭で《ドン・ジョヴァンニ》、サンフランシスコ・オペラ、バイエルン国立歌劇場で《セビリヤの理髪師》、ペーザロのロッシーニ音楽祭で《イタリアのトルコ人》、英国ロイヤル・オペラ、シートル・オペラで《コジ・ファン・トゥッテ》、ウィーン国立歌劇場で《愛の妙薬》《ドン・ジョヴァンニ》《魔笛》《ルチア》に出演するなど、世界中の著名歌劇場で活躍している。

オーケストラ・コンサートでは、マゼール指揮／ニューヨーク・フィル、ブレーズ指揮／シカゴ響をはじめ、サヴァリッシュ、レヴァイン、ムーティ等の指揮者と共に演。また、1シーズン中にカーネギー・ホールの大中小全ホールを制覇するという快挙も成し遂げている。

《椿姫》ヴィオレッタ

バルバラ・フリットリ (ソプラノ) Barbara Frittoli, Soprano



ミラノに生まれ、当地のヴェルディ音楽院で学ぶ。

これまでに、メトロポリタン・オペラ、ウィーン国立歌劇場、英國ロイヤル・オペラ、ミラノ・スカラ座、パリ・オペラ座、ドレスデン国立歌劇場をはじめ、フィレンツェ、ナポリ、ローマ、フェラーラ、ボローニャ、ミュンヘン、ブリュッセル、ジュネーヴ、チューリッヒ、バルセロナほか世界各地の主要歌劇場に多数出演。また、ザルツブルク、グラインドボーンほか多くの音楽祭でも活躍し、ムーティ、アバド、メータ、マゼール、ブレートル、レヴァイン等の著名指揮者とも再三共演している。

これらの舞台で演じた広大なレパートリーの中で、とりわけ評価の高い役柄は、《フィガロの結婚》の伯爵夫人、《オテロ》のデズデーモナ、《コジ・ファン・トゥッテ》のフィオルディリージ、《ドン・ジョヴァンニ》のドン・エルヴィーラ、《カルメン》のミカエラ、《トゥーランドット》のリュー、《ファルスタッフ》のアーチェ、《イル・トロヴァトーレ》のレオノーラなど。また《ラ・ボエーム》のミミ役は、これまでウィーン国立歌劇場、チューリッヒ歌劇場等で歌っている。

出身地のミラノ・スカラ座では特に活躍が目覚ましく、トリノ王立歌劇場にも、デズデーモナ、アーチェ役や《タイス》のタイトルロールなどでたびたび出演。

コンサートのレパートリーも広く、中でもヴェルディの「レクイエム」はアバド、ムーティ、シャイー、メータ、ゲルギエフの指揮で歌っており、録音もこれらの一流指揮者と数多く行っている。

《椿姫》アルフレード

マルセロ・アルバレス (テノール) Marcelo Álvarez, Tenor



1962年アルゼンチンのコルドバ生まれ。今日、世界中で最も名の知られたテノール歌手の一人である。5歳から長年音楽教育を受けたにもかかわらず、家業の家具工場を継ぐと同時に大学の経済学部に進学。しかし30歳頃から歌への欲求が強まり、リボーリオ・シモネッラに師事。1994年にデビューを果たし、ディ・ステファノとパヴァロッティに見出されてヨーロッパへ移る。

1995年フェニーチェなどイタリアの歌劇場にデビューし、以後ベル・カント・オペラやフランス・オペラの諸役で、世界のあらゆる一流歌劇場に次々と出演。《リゴレット》のマントヴァ公爵、《椿姫》のアルフレード、《ランメルモールのルチア》のエドガルド等で確固たる名声を獲得し、中でもアルフレード役は、メトロポリタン・オペラ、ミラノ・スカラ座、ベルリン・ドイツ・オペラほか各地で150回以上の舞台を踏み、エドガルド役は、メトロポリタン・オペラ、チューリッヒ歌劇場、バイエルン国立歌劇場や、東京、ジェノヴァ、ナポリ、ロンドン、シカゴなど11の都市で歌っている。また《ウェルテル》のタイトルロールも得意とし、英國ロイヤル・オペラ、ウィーン国立歌劇場はじめ数多くの舞台に出演している。

このほか膨大なレパートリーをもって、世界中で活躍を続け、レヴァイン、メータ、マゼール、アバド、ムーティなど多くの一流指揮者と共に演し、フレミング、デヴィー、グルベローヴァ、デセイ、ゲオルギュー、ネトレプコなどのスター・ソプラノの相手役を務めている。

《ラ・ボエーム》ミミ